江陵開幕戦制す

延長十回、及川決勝打 帯農に7―5

秋季 高校野球 十勝支部予選

高校野球の第69回秋季道大会十勝支部予選（道高野連など主催）が10日、帯広の森野球場で開幕した。午前のBブロック1回戦は延長十回、江陵が2点を勝ち越し、7―5で帯農を破り、13日の帯大谷との2回戦に駒を進めた。試合に先立って行われた開会式で、昨年の代表校の白樺学園と帯工が代表旗を返還、選手を代表して帯農の小出慎主将（2年）が「大きな災害がありながらも大会を迎えられ、支えていただいた多くの人に感謝しながら、一生懸命プレーする」と宣誓した。大会には平成（1989年）以降最少の17チームが出場。13日までにA、B両ブロックで1、2回戦を行い、ベスト4を決める。17、18日に両ブロックの準決勝、19日に同代表決定戦を実施し、十勝の代表2チームが決まる。道大会は10月2日から札幌円山球場などで開かれる。（北雅貴、金野和彦）

【1回戦・江陵―帯農】江陵は延長10回1死3塁、及川翔大が勝ち越しの左前適時打を放つ

◇Bブロック▽1回戦（10日）

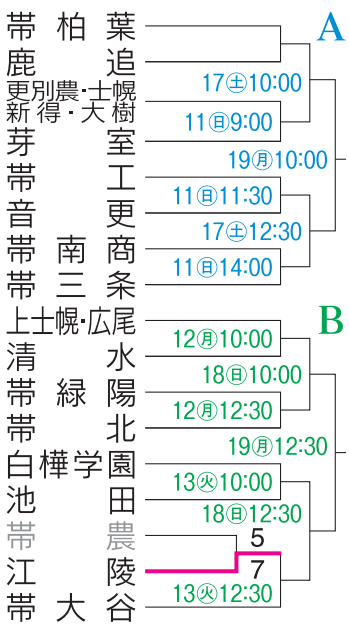
江陵	0	0	4	0	0	1	0	0	0	2		7
帯農	1	0	0	3	0	0	1	0	0	0		5

（延長十回）

▽三塁打＝武田（帯）

▽二塁打＝工藤2、丸子、及川、小森、谷口（江）齊藤（帯）

江陵は延長十回、先頭の谷口の左越え二塁打を足掛かりに、1死三塁から及川の左前適時打で勝ち越し、さらに2死三塁から工藤の中越え二塁打で7―5と突き放した。六回は工藤の左越え適時二塁打で5―4とリードを奪ったが、七回に追い付かれた。右腕の工藤は、制球に苦しみながらも粘投。九回から登板した笹森も2イニングを無安打に抑えて勝利を呼び込んだ。

帯農は、3点を追う五回、1死一、二塁で武田の右中間を深々と破る三塁打と、小出主将の左前適時打で同点とした。七回にも齊藤の適時打で再び追い付く粘りを見せた。守備では中堅の中村が背走して好捕するなど、随所で好プレーを見せた。

「大きな災害がありながらも多くの人に支えていただいた」と感謝を込め、選手宣誓する帯農の小出慎主将